散策の会「幕末の江戸歴史探訪」に参加して　　菅原雅和　（ｓ45 機）

2018 年 11 月 10 日（土）好天の中を参加者 11 名で探訪しました。
今回は、港区第一京浜沿い三田駅近くの三菱自動車（株）本社前の「西郷隆盛・勝海舟会見の地碑」に集合し、散策が開始されました。

西郷・勝の会見は薩摩藩蔵屋敷で行われ、当時は海に面した薩摩藩の荷揚げ埠頭だったそうです。そこから徒歩で薩摩藩上屋敷跡に向かいました。現在は NEC ビルが建っている辺りの広大な敷地に上屋敷があったそうで、外様大名の中でもかなりの力を持っていたようです。この薩摩藩上屋敷は薩摩藩が囲う浪士達による江戸市中の放火や狙撃など犯罪の嫌疑により幕府方に焼き討ちされました。これが戊辰戦争の発端となりました。（幕府が薩摩藩の挑発に乗って薩摩討伐に立ち上がった）

次にタクシーで赤坂 6 丁目の勝海舟邸跡へ、現在は民家の横に説明看板があるだけですが、西郷隆盛との会見（薩摩藩蔵屋敷）はここから馬に乗って出かけています。徳川幕府の国防大臣（勝海舟）が治外法権の有する敵国の領事館で司令官（西郷隆盛）と戦時交渉をしたことになります。

見学後、そのままタクシーにて国会議事堂前の井伊大老屋敷跡へ、今は国会前公園になっていて、小高い丘の上には日本標準原点などもありました。ここから江戸城桜田門までは 400mほどですが、井伊大老は駕籠に乗り 60 名ほどの家臣を従えて登城途中、桜田門の前で事件が起きました。
井伊大老の「安政の大獄」対立して水戸藩脱藩浪士（薩摩藩浪士 1 名）18 名が、行列の駕籠を狙って放った拳銃を合図に一斉に襲い掛かり、数分の間に井伊大老の暗殺に成功したそうです。

出勤行列を見物する大勢の衆目前での凶行でしたが、幕府はこの事件を公にせず、後に病死としたそうです。今で言えば国のトップが暗殺されたことになるので、その後の責任収拾のやりようが無かったのでしょうか？（公になれば政権上層部に大勢の責任切腹者が出る、幕府権力の失墜）

引き続き徒歩で桜田門を通り二重橋前で記念撮影をパチリ、坂下門前に到着です。ここは“桜田門外の変”の 2 年後に起きた老中安藤信正の暗殺未遂事件（坂下門外の変）のあった場所です。
安藤信正は刀傷を負いながら坂下門に避難しましたが、やはり襲撃を防止出来なかったと判断され、その後老中職を解かれて左遷になっています。（誰が判断したのでしょうか、政敵？）

皇居前からタクシーで上野広小路松坂屋前に移動、アメ横で昼食後に上野戦争の史跡探訪です。

徳川家擁護を唱えて上野山に集合した士族（彰義隊）が江戸開城を果たした官軍と戦ったのが上野戦争である。近代兵器（カノン砲、スナイルド銃など）を装備した官軍が三方（黒門、谷中門、不忍池向）から一斉に攻撃、彰義隊も大砲や銃で応戦しましたが、装備や兵力の差は如何ともし難く、ほぼ半日で決着がついたそうです。
上野山全体が徳川家の廟所であり、寛永寺には沢山の伽藍も存在しましたが、この時にほとんどが焼失してしまいました。官軍も上野山攻略で根岸側（今のＪＲ線側）には兵を置かず、棄戦者を逃すことにしたそうで、上野山の延焼した夕方には大方逃亡したそうです。焼けた寛永寺境内には彰義隊の死体が累々と転げていたそうで、官軍の命令でその後も数ヶ月捨て置かれたそうです。
普通に考えると官軍に勝利は不可能なことが明白なのに、なぜ命を賭してその方向に行ってしまうのでしょうか？

三橋を超えて黒門を撃破した西郷軍

上野松坂屋（西郷軍本陣）、最初の攻防線三橋と小料理屋（二階から砲撃）、黒門の突破、彰義隊墓碑、清水堂奉納の砲弾、弾痕残る旧本坊門扉などを見学しながら谷中霊園に向かいます。

途中（国立博物館の裏側）歴代将軍と正室の霊廟があり、豪華な門構えに守られて多数並んでいました。（第 13 代将軍家定と篤姫の墓など）
現在の寛永寺根本中堂は谷中霊園近くにありますが、その傍に徳川慶喜が江戸開城後に蟄居謹慎した屋敷がありました。

　そのまま霊園に進むと江戸時代の徳川家ゆかりの立派な墓碑が立ち並ぶ中に、一角が囲われた慶喜と正室の墓所（神道式）がありました。（慶喜は明治維新後に神道に改宗したそうですが、改宗の理由は何だったのでしょう）

銃弾痕が多数残る黒門（円通寺）

　霊園から芋坂に抜けて日暮里からタクシーで円通寺へ移動、ここには彰義隊士の墓と上野寛永寺の正門であった黒門が移設されています。上野山に放置された彰義隊士の骸を見かねて、円通寺住職が打首覚悟で官軍と交渉してここに埋葬を認めさせたそうです。その縁でスナイドル銃弾痕が沢山残る往時の

寛永寺黒門が遺蹟として円通寺に移設されています。20㎜ほどの貫通痕が生々しく残されており、指で触ってその威力を実感しました。

待たせていたタクシーで南千住の回向院へ、幕末の「安政の大獄」で処刑された吉田松陰、橋本左内や桜田門外の変の実行犯、また小塚原で刑死した罪人（鼠小僧、高橋お伝等）が葬られています。そして解体新書の編さんで刑死体を解剖（腑分け）したのもここで行われたそうです。（刑死体を三段重ねにして刀の試し切りも行ったらしい）

小塚原刑場は火罪、磔、獄門の刑場であり、廃止されるまでの200年間に20万人が処刑されたそうです。（この辺一帯が埋葬地であって野犬やイタチが群がっていたそうです）

小塚原刑場跡には250年前に建立された高さ3mほどの首切り地蔵がありますが、地蔵さんも毎日の様に処刑される罪人の弔いに大変であったろうと感じました。

今回の散策で幕末に思いを馳せる機会を得ることが出来ました。時代の変革には多くの人が犠牲になると言われます。この時代は多くの日本人がそれぞれの信条・立場で命を落とさざるを得なかった思いに、敬意を覚えつつ広範囲に渡った今回の散策を完走しました。

日暮里の居酒屋にて（カメラマン：吉田さん）

今回も「散策締めの場」が設けられ、全員で喉の渇きと足腰の疲れを癒やすことが出来ました。

今回の散策の会を準備・資料作成/配布・現地での詳しい説明をして頂いた櫻井さんに感謝申し上げます。楽しい一日でした。

以上